

令和6年度 亀岡中部農地整備事業
曾我部工区整備工事

特別仕様書

近畿農政局亀岡中部農地整備事業所

項目	内容	摘要
第1章 総則	令和6年度亀岡中部農地整備事業曾我部工区整備工事（以下「本工事」という。）の施工に当たっては、農林水産省農村振興局制定「土木工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）及び近畿農政局農村振興部制定「近畿農政局土木工事共通事項書（令和6年4月）」（URL：https://www.maff.go.jp/kinki/seibi/sekei/kouji_gyoumu/kouji_gyoumu.html）（以下、「共通事項書」という。）に基づいて実施するものとする。 なお、共通仕様書及び共通事項書に対する特記及び追加事項は、この特別仕様書によるものとする。	
第2章 工事内容		
1. 目的	本工事は、国営亀岡中部土地改良事業計画に基づき造成したほ場及び周辺施設の補完的な整備を行うものである。	
2. 工事場所	京都府亀岡市曾我部町南条、犬飼、法貴、寺、中、春日部地内	
3. 工事概要	本工事の概要は次のとおりである。 整地工 A= 0.43 ha 整備工 1 式	
4. 工事数量	別紙「工事数量表」のとおりである。	
5. 工期	本工事は、受注者の円滑な工事施工体制を確保するため、事前に建設資材、建設労働者の確保などが図れる余裕期間と実工期を合わせた全体工期を設定した工事であり、発注者が示した工事完了期限までの間で、受注者は工事の始期（工事開始日）及び終期を任意に設定できる。なお、受注者は、契約を締結するまでの間に、別記様式により、工事の始期及び終期を通知しなければならない。 ただし、受注者は、発注者が本工事の積算上の工期としている155日間よりも短い期間を工期として設定しようとする場合には、落札決定後、速やかに別記様式と併せて、休日を確保していることや適切な工程による工事であることを説明できる理由書及び工程表を提出しなければならない。 工事の始期までの余裕期間内は、主任技術者又は監理技術者を配置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の手配等を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う手配等は受注者の責により行うものとする。 全体工期：契約締結の日から令和7年3月28日（工事完了期限日）まで 工事完了期限内における工期の変更については、受注者から変更理由が記載された書面での協議を行うこと。 なお、低入札価格調査等により、上記の工事の始期以降に契約締結となった場合には、余裕期間は適用しない。 また、工事实績情報システム（コリンズ）に登録する技術者の従事期間は、契約（変更の場合は、変更契約）工期をもって登録することとし、余裕期間を含まないことに留意すること。	
第3章 施工条件		
1. 作業可能日数	本工事の作業可能日数は16日（月平均）と想定している。	
2. 寒中コンクリート	1）本工事におけるコンクリート工事で冬季期間に施工するものに当たっては、気象の変動を的確に把握し、共通仕様書第1編3-10-2に規定する「寒中コンクリート」としての施工を行わなければならない。 2）発注者が想定している寒中コンクリートの施工期間は、令和6年12月18日～	

項目	内容	摘要
	令和7年2月18日を想定している。なお、受注者の都合による工事工程の変更により生じる数量の増減は、設計変更の対象としない。 3) 受注者は、寒中コンクリートの養生方法、その他の施工方法について、共通仕様書第1編1-1-5に基づき作成する施工計画書に記載しなければならない。	
3. 現場技術員	本工事は、共通仕様書第1編1-1-9に規定している現場技術員を配置する。氏名等については、別に通知する。	
4. 埋蔵文化財	工事施工中に埋蔵文化財と思われるものが確認された場合、共通仕様書1-1-40文化財の保護の措置に従い、直ちに工事を中止のうえ、監督職員に報告し、その指示に応じなければならない。	
第4章 現場条件		
1. 土質	本工事の施工場所の土質は、砂質土と想定している。	
2. 第三者に対する措置		
(1) 騒音・振動対策	騒音・振動等の対策については、十分に配慮するとともに、地域住民との協調を図り、工事の円滑な進捗に努めなければならない。	
(2) 境界対策	1) 地区境界付近の施工は、原則境界から50cm程度離隔をとって施工するものとするが、詳細については、監督職員と協議するものとする。 2) 本工事周辺の道路、水路、家屋等に近接して施工する場合は、ブルドーザーの走行速度を落とす等、既存施設に損害を与えないよう十分注意して施工しなければならない。 また、工事の施工に際しては、隣接地権者及び関係者とトラブルの生じないように、十分注意して施工するものとし、特別な対策が必要な場合は監督職員と協議するものとする。 なお受注者の責によるトラブルが生じた場合は、受注者の責任において処理しなければならない。	
(3) 保安対策	本工事における交通誘導警備員は計上していないが、現地交通状況等により必要な場合は監督職員と協議するものとする。	
(4) 現場内への立ち入り制限等	安全のため第三者の現場内への立ち入りを制限するとともに、必要な箇所には安全施設を設置するものとする。	
(5) 交通対策	1) 工事用車両は、工事区域内外の運行に際し制限速度等を遵守すること。なお、工事区域内の制限速度は20km/hrとする。 2) 工事用車両は主要資材の搬入搬出及び残土運搬時等において、車両からの流出、飛散を防止しなければならない。 3) 工事用車両の運行に伴い、一般道路等が損傷し道路管理者から修復等を求められた場合には、その補修工事について協議することがある。 このため、頻繁に工事用車両の運行が予想される工事現場周辺の一般道路等は、事前にその路面状況等を記録しておかなければならない。なお、受注者の責で道路を損傷した場合は、監督職員に報告の上、現況復旧を行うものとする。	

項目	内容				摘要		
(6) 防塵対策	本工事では、防塵対策は想定していないが、必要が生じた場合は監督職員と協議するものとする。						
(7) 早朝及び夜間作業の禁止	労働災害及び騒音防止の観点から、原則として早朝及び夜間作業を行ってはならない。						
第5章 仮設工							
1. 水替工	工事現場内における排水量は、次のとおり想定している。 犬飼区 403 番圃場：Qmax=6 m3/h 法貴区 341, 343-1番圃場：Qmax=6 m3/h 中区 148番圃場：Qmax=6 m3/h 春日部区 26番圃場：Qmax=6 m3/h なお、受注者が任意で行った水替工は、契約変更の対象としない。						
2. 建設発生土受入地	1) 本工事では、他工事へ発生土として次の土量の搬出を予定している。						
(1) 発生土(搬出)	搬出先工事名	搬出期間	搬出量	摘要			
	曾我部工区区画整理その33-2工事	令和6年10月～令和6年12月	554m3				
第6章 工事用地等	2) 搬出土の受け渡し場所は、曾我部工区区画整理その33-2工事工事現場とする						
1. 発注者が確保している用地	発注者が確保している工事用地及び工事施工上必要な用地（以下「工事用地等」という。）は、計画平面図上に示す施工範囲内のとおりである。						
2. 工事用地等の使用及び返還	工事用地等については、工事施工に先立ち、監督職員の立会いのうえ用地境界、使用条件等の確認を行わなければならない。						
3. 受注者の裁量による工事用地等	発注者が確保している工事用地以外の用地を受注者の裁量で確保する場合は、受注者の責任において処理するものとする。						
第7章 工事用電力	本工事に使用する電力設備は、受注者の責任において準備しなければならない。						
第8章 工事用材料							
1. 規格及び品質	本工事で使用する主要材料の規格及び品質は次のとおりであり、監督職員が指示する材料については、試験成績書等を提出しなければならない。 1) 石材及び骨材 再生クラッシュラン RC-40 2) コンクリート コンクリートはレディーミクストコンクリートとし、種類は次のとおりとする。						
	種類	呼び強度(N/mm2)	スラブ [°] (cm)	粗骨材の最大寸法(mm)	水セメント比W/C (%)	セメントの種類による記号	使用目的
	無筋コンクリート	18	8	25 40	65以下	BB	一般構造物 均しコンクリート

項目	内容	摘要															
2. 見本又は資料提出	※粗骨材最大寸法25mmは、地域的に骨材の入手が困難な場合20mmの使用を可能とする。																
	3) コンクリート二次製品 一筆排水枡																
	4) 管類 硬質ポリ塩化ビニル管 硬質ポリ塩化ビニル管接手 高密度ポリエチレン管	JIS K 6741 JIS K 6743															
	5) その他 アルミ製簡易スライドゲート 手動式 三方水密																
	1) 主要材料及び次に示す工事材料は、使用前に試験成績書、見本、カタログ等を監督職員に提出して承諾を得なければならない。 また、これ以外の材料についても監督職員が提出を指示する場合がある。																
	<table><tr><th>材料名</th><th>提出物</th></tr><tr><td>コンクリート</td><td>計画配合表、試験成績書</td></tr><tr><td>石材及び骨材</td><td>試験成績書・粒度分布表</td></tr><tr><td>コンクリート二次製品</td><td>カタログ、試験成績書</td></tr><tr><td>硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>カタログ</td></tr><tr><td>その他資材</td><td>カタログ、試験成績書等</td></tr></table>	材料名	提出物	コンクリート	計画配合表、試験成績書	石材及び骨材	試験成績書・粒度分布表	コンクリート二次製品	カタログ、試験成績書	硬質ポリ塩化ビニル管	カタログ	その他資材	カタログ、試験成績書等				
	材料名	提出物															
	コンクリート	計画配合表、試験成績書															
	石材及び骨材	試験成績書・粒度分布表															
	コンクリート二次製品	カタログ、試験成績書															
硬質ポリ塩化ビニル管	カタログ																
その他資材	カタログ、試験成績書等																
3. 監督職員の検査又は試験	次に示す工事材料は、使用前に監督職員の検査又は試験を受けなければならない。なお、その他の材料は、受注者の自主管理記録を確認する場合があるので、監督職員が提出を指示した場合は、これに応じなければならない。																
	<table><tr><th>材料名</th><th>検査・試験項目</th><th>時期</th></tr><tr><td>管材</td><td>寸法及び外観形状</td><td>搬入時抽出検査</td></tr><tr><td>コンクリート二次製品</td><td>寸法及び外観形状</td><td>搬入時抽出検査</td></tr><tr><td>石材及び骨材（敷砂利用）</td><td>不純物混入程度</td><td>搬入時抽出検査</td></tr><tr><td>その他主要材料</td><td>寸法及び外観形状</td><td>搬入時抽出検査</td></tr></table>	材料名	検査・試験項目	時期	管材	寸法及び外観形状	搬入時抽出検査	コンクリート二次製品	寸法及び外観形状	搬入時抽出検査	石材及び骨材（敷砂利用）	不純物混入程度	搬入時抽出検査	その他主要材料	寸法及び外観形状	搬入時抽出検査	
	材料名	検査・試験項目	時期														
	管材	寸法及び外観形状	搬入時抽出検査														
	コンクリート二次製品	寸法及び外観形状	搬入時抽出検査														
	石材及び骨材（敷砂利用）	不純物混入程度	搬入時抽出検査														
	その他主要材料	寸法及び外観形状	搬入時抽出検査														
第9章 施工																	
1. 一般事項																	
(1) 一般事項	1)すべての施工範囲については、施工前に監督職員立会いのもと決定するものとする。また、共通仕様書第1章第1節1－1－5に規定する施工計画には、降雨並びに運土に伴う防災対策等について記載しなければならない。																
(2) 施工図の作成	縮尺1/500の施工図を貸与するものとする。 なお、完成時点の施工図については、整地面積、水張面積を算出の上、電子データで提出するものとする。																
(3) 基準点	本工事の基準点及び水準点は別添図面に示すとおりであり、詳細については別途監督職員が指示する。 なお、基準点等の位置データは測地成果2000に対応したものである。																
(4) 地区境界	1) 工事施工に先立ち、地区境界について、事前に現地で確認しなければならない。なお、地区境界にかかる資料は、別途貸与する。 2) 境界杭については、工事施工中においても移動しないように留意するものとし、必要に応じて控杭等を設けるものとする。 3) 境界杭については施工完了時にすべて復旧するものとするが、杭の設置が困難な箇所や営農に支障となる箇所等があることから、事前に監督職員と協議す																

項目	内容	摘要																				
(5) 標準図面集	るものとする。 工事施工は、別添図面の他、「亀岡中部農地整備事業標準図面集（令和5年11月）」（以下、「標準図面集」という。）により行うものとする。 なお、現地の状況等により、標準図面集が適用できない場合は、監督職員と協議するものとする。																					
(6) 検測又は確認（施工段階確認）	1) 本工事の施工段階確認は、下表に示すとおりである。ただし、確認時期・頻度については、監督職員の指示により変更する場合がある。 2) 下表に示す以外の工種は、自主検査記録を確認する場合があるので、監督職員が求めた場合、これに応じなければならない。 3) 遠隔確認の実施については、「近畿農政局土木工事共通事項書16. 工事現場等における遠隔確認について」により決定する。 <table><tr><th>工種</th><th>確認内容</th><th>確認時期・頻度 (一般監督)</th><th>遠隔確認対象</th><th>備考</th></tr><tr><td>基盤造成</td><td>基準高</td><td>施工完了後 各計画ほ場1箇所以上</td><td>指示による</td><td></td></tr><tr><td>二次製品水路布設</td><td>布設基盤状況（継手 部つぼ掘り含む）</td><td>初期施工ほ場で1箇所</td><td>指示による</td><td></td></tr><tr><td>一筆排水工</td><td>排水樹畦畔転圧状況</td><td>初期施工ほ場で1箇所</td><td>指示による</td><td></td></tr></table>	工種	確認内容	確認時期・頻度 (一般監督)	遠隔確認対象	備考	基盤造成	基準高	施工完了後 各計画ほ場1箇所以上	指示による		二次製品水路布設	布設基盤状況（継手 部つぼ掘り含む）	初期施工ほ場で1箇所	指示による		一筆排水工	排水樹畦畔転圧状況	初期施工ほ場で1箇所	指示による		
工種	確認内容	確認時期・頻度 (一般監督)	遠隔確認対象	備考																		
基盤造成	基準高	施工完了後 各計画ほ場1箇所以上	指示による																			
二次製品水路布設	布設基盤状況（継手 部つぼ掘り含む）	初期施工ほ場で1箇所	指示による																			
一筆排水工	排水樹畦畔転圧状況	初期施工ほ場で1箇所	指示による																			
(7) 既設構造物 に対する措置	本工事の施工に当たって、既設構造物を取壊し撤去する場合は、構造・寸法について事前に監督職員に報告して確認を受けなければならない。																					
(8) 設計図書等 の充足	本仕様書及び設計図書等に明記なき事項であっても、構造上及び機能上当然具備すべきものについては、監督職員に報告しこれを充足するものとする。																					
(9) その他	1) 工事施工に先立ち、極力工区外の排水は、これを遮断し工区内への流入を防ぐものとする。 なお、工事中に滞水が生じたときは速やかに排除しなくてはならない。 2) ブルドーザーの運転手は熟練者を乗務させ、走行回数をできるだけ少なくして、過転圧やこね回しとならないよう施工しなければならない。																					
2. 再生資源等の 利用	1) 再生資材の利用 受注者は、次に示す再生資源を利用しなければならない。 <table><tr><th>資材名</th><th>規格</th><th>備考</th></tr><tr><td>再生クラッシュラン</td><td>RC-40</td><td>路盤材、舗装材</td></tr></table> なお、舗装材に使用する場合等には「舗装再生便覧」（（公社）日本道路協会発行）等を遵守する。	資材名	規格	備考	再生クラッシュラン	RC-40	路盤材、舗装材															
資材名	規格	備考																				
再生クラッシュラン	RC-40	路盤材、舗装材																				
3. 特定建設資材 の分別解体等	本工事における特定建設資材の工程ごとの作業内容及び分別解体等の方法は、次のとおりである。 <table><tr><th>工程ごとの作業内</th><th>工程</th><th>作業内容</th><th>分別解体等の方法</th></tr><tr><td rowspan="3"></td><td>①仮設</td><td>仮設工事 □有 □無</td><td>□手作業 □手作業・機械作業の併用</td></tr><tr><td>②土工</td><td>土工事 ■有 □無</td><td>□手作業 ■手作業・機械作業の併用</td></tr><tr><td>③基礎</td><td>基礎工事 □有 □無</td><td>□手作業 □手作業・機械作業の併用</td></tr></table>	工程ごとの作業内	工程	作業内容	分別解体等の方法		①仮設	仮設工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用	②土工	土工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用	③基礎	基礎工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用							
工程ごとの作業内	工程	作業内容	分別解体等の方法																			
	①仮設	仮設工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用																			
	②土工	土工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用																			
	③基礎	基礎工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用																			

項目	内容				摘要
	容 及 び 解 体 方 法	④本体構造	本体構造の工事 ☐ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
		⑤本体付属品	本体付属品の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☒ 手作業・機械作業の併用	
		⑥その他	その他の工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用	
4. 土工 (1) 掘削		1) 掘削土は埋戻し及び盛土に流用する。 2) 掘削に当たっては、法面の崩落に十分注意して施工するものとする。 3) 法面の崩落により他の施設に重大な影響が発生又は、そのおそれが認められる場合は、速やかに監督職員と協議するものとする。			
(2) 埋戻し及び盛土		1) 埋戻し及び盛土は一層の仕上がり厚さが30cm以下になるようにまき出し、施工条件に合った締固め機械により十分締固めなければならない。 2) 構造物隣接箇所等の埋戻し及び盛土は、一層の仕上がり厚が30cm以下となるよう均一にまき出し、施工条件に合った小型締固め機械で十分に締固めを行わなければならない。 3) 暗渠工基床部の不陸整正及び整形は、均一に支持できるように浮き石等を除去して平滑に仕上げなければならない。 4) 既設水路等撤去後の埋戻し ① 埋戻しに先立ち、たまり水等を排除しドライな状態での施工を心掛けること。 ② 堆積土等が基盤土として適さないと思われる場合は、監督職員と協議するものとし、軟弱土等を基盤内に混入させてはならない。 ③ 埋戻しは、良質土を一層の仕上がり厚さが30cm以下となるようまき出し、十分に締固めなければならない。			
5. 整地工 (1) 基盤整地		1) 基盤均平作業は、不陸が生じないよう、細心の注意を払って仕上げなければならない。 2) 石礫の除去は基盤均平を行う範囲とし、おおむね直径5cm以上を5m ³ /ha想定している。なお、石礫除去の数量は監督職員に報告するものとする。			
(2) 表土整地		1) 整地仕上げは、原則湛水均平工法とし、用水取水口側が高くなるよう、仕上げなければならない。なお、湛水均平作業により難しい場合は、作業前に監督職員と協議しなければならない。 2) 表土戻し後湛水均平を行う場合は、湛水深は必要以上に深くしてはならない。 3) ふれ水により畦畔崩壊が生ずる場合があるため、使用機械のスピードや排土板の扱いに注意するとともに、崩壊を防止するため所要の処理を講ずるものとする。また、整地後の湛水は排水路へ排水せず地下浸透させる等、濁水によるトラブルが生じないように注意すること。			
6. 一筆排水工		一筆排水工周辺は、湛水後に漏水や崩壊の原因にならないよう、埋戻し土の土質にも留意したうえで、入念に埋戻しを行わなければならない。			
7. 道路工		敷砂利は再生クラッシュラン（RC-40）により仕上がり厚10cmとし、施工条件に合った転圧機械により締固めなければならない。 また、工事後の営農車両の通行に支障を及ぼす恐れのある不純物（ガラス片、			

項目	内容	摘要										
第10章 施工管理 1. 主任技術者等の資格 2. 施工管理 （1）工程管理 （2）施工管理の追加項目	金属片、鋭利なプラスチック片・陶磁器片等）をなるべく含まない材料を使用するものとする。 なお、施工後、路面上に不純物が確認された場合は除去するものとする。 主任技術者又は監理技術者の資格は、入札公告によるものとする。 受注者は工事施工中において、計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じる恐れがある場合は、原因を究明するとともに対策案を速やかに監督職員へ報告しなければならない。 1）土木工事施工管理基準別表第1を次のとおり変更する。 <table><tr><th>工種</th><th>項目</th><th>管理基準値(%)</th><th>規格値(%)</th><th>測定基準</th></tr><tr><td>表土扱い</td><td>厚さ</td><td>+ 20 - 0</td><td>- 0</td><td>変更なし</td></tr></table>	工種	項目	管理基準値(%)	規格値(%)	測定基準	表土扱い	厚さ	+ 20 - 0	- 0	変更なし	
工種	項目	管理基準値(%)	規格値(%)	測定基準								
表土扱い	厚さ	+ 20 - 0	- 0	変更なし								
第11章 条件変更の補足説明	本工事の施工に当たり、自然的又は人為的な施工条件が設計図書等と異なる場合、あるいは、設計図書等には示されていない場合の施工条件の変更に該当する主な事項は、次のとおりである。 ① 土質 ② 転石の出現 ③ 湧水の出現 ④ 予想し得なかった騒音規制、交通規制 ⑤ 第三者との協議によるもの ⑥ 地下埋設物（埋蔵文化財を含む）の出現 ⑦ 関係機関との協議による変更 ⑧ 遠隔確認の施行を行う場合 ⑨ その他監督職員が認めた事項											
第12章 その他 1. 電子納品 2. CORINSへの登録 3. 週休2日による施工	工事完成図書を、共通仕様書第1編1-1-37に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。 ・工事完成図書の電子媒体（CD-RもしくはDVD-R）正副2部 ・工事完成図書の出力1部（電子媒体の出力、市販のファイル綴じで可） 技術者の従事期間は、契約工期をもって登録することとし、余裕期間を含まないことに留意すること。 1）本工事は、週休2日に取り組むことを前提として、労務費、機械経費（賃料）、間接工事費を補正した試行対象工事である。受注者は、週休2日を実施する希望がある場合、契約後、工事着手前日までに週休2日の実施計画書を監督職員へ提出し、本試行を適用することができる。 2）「週休2日」とは、対象期間を通じた現場閉所の日数が、4週8休以上となることをいう。 なお、ここでいう対象期間、現場閉所等の具体的な内容は次のとおりである。 ① 対象期間とは、工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、対象期間において、年末年始を挟む工事では年末年始休暇分として12月29日から											

項目	内容	摘要																
	1月3日までの6日間、8月を挟む工事では夏季休暇分として土日以外の3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、余裕期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。 ② 現場閉所とは、現場事務所等での事務作業を含め、1日を通して現場作業が行われない状態をいう。ただし、現場安全点検や巡視作業等、現場管理上必要な作業を行うことは可とする。 3) 週休2日（4週8休以上）とは、対象期間内の現場閉所日数の割合が28.5%（8日／28日）以上の水準に達する状態をいう。なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。 4) 週休2日（4週8休以上）の実施の確認方法は、次によるものとする。 ① 受注者は、週休2日の実施を希望する場合、契約後、工事着手前日までに週休2日の実施計画書を作成し監督職員へ提出する。 ② 受注者は、週休2日の実施状況を定期的に監督職員へ報告する。なお、週休2日の実施状況の報告については、現場閉所実績が記載された日報、工程表や休日等の作業連絡記録、安全教育・訓練等の記録資料等により行うものとする。 ③ 監督職員は、上記受注者からの報告により週休2日の実施状況を確認するものとし、必要に応じて受注者からの聞き取り等を行う。 ④ 監督職員は、受注者から定期的な報告がない場合や、実施状況が確認できない場合などがあれば、受注者から上記②の記録資料等の提示を求め確認を行うものとする。 ⑤ 報告の時期は、受注者と監督職員が協議して定める。 5) 監督職員が週休2日の実施状況について、必要に応じて聞き取り等の確認を行う場合には、受注者は協力するものとする。 6) 発注者は、現場閉所を確認した場合は、現場閉所状況に応じた以下に示す補正係数により、労務費、機械経費（賃料）、共通仮設費（率分）、現場管理費（率分）を補正し設計変更を行うものとする。 ①補正係数 <table><tr><th>項 目</th><th>4週8休以上</th></tr><tr><td>現場閉所率</td><td>28.5%(8日/28日)以上</td></tr><tr><td>労務費</td><td>1.02</td></tr><tr><td>機械経費（賃料）</td><td>1.02</td></tr><tr><td>共通仮設費（率分）</td><td>1.02</td></tr><tr><td>現場管理費（率分）</td><td>1.05</td></tr></table> ②補正方法 当初積算において4週8休以上の達成を前提とした補正係数を各経費に乗じている。また、発注者は工事完成時に現場閉所の達成状況を確認後、4週8休に満たない場合は、工事請負契約書第25条の規定に基づき請負代金額のうち、それぞれの経費につき上記①に示す補正係数による補正を行わずに減額変更する。 なお、工事着手前に週休2日に取り組むことについて監督職員へ報告しなかったもの（受注者が週休2日の取組を希望しないものを含む）については、当初積算の補正分を全て減ずるものとする。 7) 週休2日の確保に取り組む工事において、市場単価方式・土木工事標準単価による積算に当たっては、現場閉所状況に応じて、以下のとおり補正する。 <table><tr><th rowspan="2">名称</th><th rowspan="2">区分</th><th>補正係数</th></tr><tr><td>4週8休以上</td></tr></table>	項 目	4週8休以上	現場閉所率	28.5%(8日/28日)以上	労務費	1.02	機械経費（賃料）	1.02	共通仮設費（率分）	1.02	現場管理費（率分）	1.05	名称	区分	補正係数	4週8休以上	
項 目	4週8休以上																	
現場閉所率	28.5%(8日/28日)以上																	
労務費	1.02																	
機械経費（賃料）	1.02																	
共通仮設費（率分）	1.02																	
現場管理費（率分）	1.05																	
名称	区分	補正係数																
		4週8休以上																

項目	内容	摘要
4. 1日未満で完了する作業の積算	排水構造物工 1.02 1) 本工事における1日未満で完了する作業の積算（以下、「1日未満積算基準」という。）は、変更積算にのみ適用する。 なお、1日未満積算基準は、農林水産省HPの下記サイトを参照すること。 https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/attach/pdf/index-116.pdf 2) 受注者は施工パッケージ型積算基準と乖離があった場合に、1日未満積算基準の適用について、協議の発議を行うことができる。 3) 同一作業員の作業が他工種等の作業と組み合わせで1日作業となる場合には、1日未満積算基準は適用しない。 4) 受注者は、協議に当たって、1日未満積算基準に該当することを示す書面、その他協議に必要となる根拠資料（見積書、契約書、請求書等）により、施工パッケージ型積算基準との乖離を確認できない場合には、1日未満積算基準は適用しない。 5) 災害復旧工事等で人工精算する場合や、「時間的制約を受ける工事の積算方法」を適用して積算する場合等、1日未満積算基準以外の方法によることが適当と判断される場合には、1日未満積算基準を適用しない。	
第13章 天災その他不可抗力	天災その他の不可抗力による損害は、請負契約書第30条によるものとする。	
第14章 定めなき事項	この特別仕様書に定めない事項又は本工事の施工に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。	